第20回山のトイレを考える会フォーラム記録
テーマ『トムラウシ・美瑛富士トイレ問題のこれから』

2019年3月16日（土） 14:30～17:00

札幌エルプラザ2階 環境研修室1・2 参加者数：40名

1. 開会挨拶…前代表 岩村和彦

- ・2007年（H19年）に横須賀さんから代表を引き継ぎ12年経った。マナー化、高齢化などを考え、先を見据えて小枝さんに代表を交代することにした。
- ・2000年、婦人文化センターでガイドの横須賀さんの講演会を聞いた。トイレ紙の持ち帰りの必要性を感じていた時だった。講演会后5、6人ですぐ考える会を立ち上げた。活動をスタートしてから約19年。トイレ紙や汚物の散乱が目に見えて少なくなり、登山者のマナーも格段によくなったと思う。
- ・美瑛富士を何とかしなければならなかったと思っていた。トイレ設置の署名を約27,000筆集め、2006年に環境省と北海道に提出したが膠着状態が続いた。2014年にトイレ設置から携帯トイレ導入に舵を切った。ブースの維持管理は私たちがやりますと「美瑛富士トイレ管理連絡会」を立ち上げた。全国的に見ても画期的。2015年からテント型携帯トイレブースを環境省で試験的に設置。アンケート調査を実施してその有効性を検証している。2019年は5年目となる。1～2年のうちに常設のブースが設置されると思う。利用者が自ら山岳環境をよくするための仕組みが出来つつあることは嬉しいことであり、考える会として少し貢献ができたのかなと思う。
- ・考える会では事務局運営委員を募集している。現在の運営委員の平均年齢は65代後半となった。一人でも入ってくれれば嬉しい。私はこれからも関わっていく。

2. 山のトイレを考える会活動報告…資料集参照 事務局長 仲俣善雄

3. 発表…資料集参照

- (1) 2018年美瑛富士携帯トイレブースの取り組みについて
環境省東川自然保護官事務所 自然保護官 齋藤明光
- (2) 美瑛富士・携帯トイレシステム試行4年目の活動報告
美瑛富士トイレ管理連絡会 事務局 仲俣善雄
- (3) トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト2年目の活動報告と今後の取り組み
北海道十勝総合振興局環境生活課 主任 牛嶋あすみ

4. 総合討論 コーディネーター 代表 小枝正人
〔ヒサゴ沼避難小屋改修問題〕

黒田（大雪山国立公園パークボランティア連絡会） …6月～10月、トイレも利用できない？作業する人のトイレはどうなっているのか。南沼にインパクトがかかる心配がある。S53年（1978年）頃に改修した時に仙台の大学教授の遭難事故があった。小屋が使えなかったためだ。資材置場となるので野営地も使えない。あまりにも乱暴。そんなに資材を置くのかなど。

牛嶋（十勝総合振興局） …急に改修工事が決まったので困惑していると思う。まだ設計段階。基礎を残して壁や屋根を修理。トイレは便槽はそのまま上屋を建て替える。作業者のトイレは設置すると思うが、一般に開放するか不明。まず今年度ヒサゴ沼は使えないと案内をしている。ヒサゴ沼を使わない山行計画を立てて欲しい。

小枝（山のトイレを考える会） …詳細は道のHPに掲載。今出たばかり。道からいろいろな団体、機関に周知始めた。作業用トイレ使用の可否、資材置場の関係等、工事詳細が順次周知されると思う。本州の人はヒサゴを使う人が多い。

福井（上川総合振興局） …資材置場の件は乱暴という意見もあるかと思う。野営地は豪雨で水没してしまう。そのスケール感、水没がどこまであるのか分からないので、現状では一律に使えませんというアナウンスになっている。

山口（山岳レクリエーション管理研究会） …この件は直感的にまずいなと思うのは同じ。道に任せず、どれだけ協力できるかに絞ってやろうと思っている。今後話あう。いくつかのハードルを設けてそれをやるようにして欲しい。それに対して民間がどれだけ出来るかを考えている。野営地の話は北大の工藤先生に既にお知らせしている。毎年ヒサゴ沼に入っていて植生、小屋周辺のことはご存知なので協力をお願いしている。

小枝（山のトイレを考える会） …本州の個人の登山者にどうやって情報を伝えるか。ヤマレコ、ヤママップでどのように周知するか、誰がやるのか。一番効果があるネット関係にどこからどのように頼むか。キチント話をしなければならない。山口さんもいろいろと心配して考えている。現地に来て初めて知ることがないようにしなければならない。

金野（大雪山国立公園パークボランティア連絡会） …忠別小屋トイレはどうなるか。

小枝（山のトイレを考える会） …忠別小屋はボットントイレ。携帯トイレを使うことはアナウンスされていない。今までどおりだと思う。

金野（大雪山国立公園パークボランティア連絡会） …北沼の所にテントを張る人が増えている。毎年、テントの風よけの石垣があり崩している。忠別小屋のテント場は狭い。荒れてしまう。北沼の平な所にテントを張る心配がある。忠別小屋からトムラ南沼は結構な距離がある。

小枝（山のトイレを考える会） …解決策はなかなか無いのですが、北沼や他にもテントは張ってはいけませんよと言う話は必ず出てくる。アクティブレンジャーやパークボランティアの人から注意をする場面が増えると思うが、何とか穏やかな形で自然の負荷をかけないようにするしかない。

〔美瑛富士の携帯トイレ所持率向上に向けて〕

小枝（山のトイレを考える会）…トムラは美瑛富士と比べ携帯トイレ所持率が高い。汚名返上プロジェクトの活動が効果あったと言えるし、違う要因もあるのではないかと。美瑛富士の所持率は77%。森林管理署のゲート番号問い合わせ時に携帯トイレ使用を呼びかけていただいているのが効果として現れていると推察できる。マスコミの新聞掲載も効果があった。その数値を維持していく、さらにアップしていくにはどうするとよいのか。微妙な所でカバーしなければならない。決定的な所は既にやっている。他に何かすることはないか知恵を拝借したい。ネット関連で効果がある方法は何か。登山者に見ていただくことができるか。皆さんが本州の登山者だったら、トムラやオプタテシケ山に行く時には何の情報を見て登山計画を立てるか。その時に携帯トイレを使用する場所と言う情報を見るかどうかイメージできますか。現実的に見ると、十勝総合振興局、上川総合振興局、新得町などいろいろなHPで周知はしている。しかし総合振興局のトップページにはその情報はない。さらに下の下の環境生活課でやっと情報が出てくる。何かよい方法はあるか。

仲俣（山のトイレを考える会）…HPを見る時代ではない。Facebook やツイッター、インスタグラム等で情報発信し拡散していく時代。役所のHPで情報を得ることはあまりない。SNSで情報を発信して効果的に周知する方法について検討しなければならない。

仲俣（山のトイレを考える会）…携帯トイレを持ってきていない人が白金温泉で入手できる、いい方法はないかといつも考えている。4つのホテルに携帯トイレを置かせてもらっているが、早朝に登山口で気付いたとしてもホテルまで戻ってまで買わない。コンビニもない。早池峰のように無人販売器も考えられるが管理が難しい。トムラは東大雪荘で入手できるのでよいが、美瑛は難しい。所持率を上げるにはネットに頼るしかないのかな。

小枝（山のトイレを考える会）…忘れた人が容易に入手できるのは難しい。新得JR駅で売れているのはすごい。表大雪から十勝へ縦走する人は旭岳ロープウェイ姿見駅、層雲峡の黒岳ロープウェイ駅、白雲小屋でも販売しているので、入手する機会が多くある環境だと思う。

〔トムラ南沼汚名返上P Jに望むこと〕

小枝（山のトイレを考える会）…ドローンでトムラ南沼を撮った写真を見た。今は視覚的に野営地を見れるようになった。今回、もう1基ブースを設置するが、場所の選定がある。裸地の所で許可を得ることになるので場所は限られる。7月には何とか設置したいと考えている。トイレ道の植生復元は2年やった。トイレ道が広い範囲で広がっていて対応がなかなか難しい。南沼に泊まらない日帰りの人は南沼に寄らずに山頂に上がる。ブースがあることを分岐で掲示周知して知ってもらうことが必要。また、外国人のために「トイレではないこと」「携帯トイレの使い方」を多言語表示も検討しなければならない。ブース設置の際は一般登山者に資材の担ぎ上げ等で協力してもらうことが必要でないか。

小枝（山のトイレを考える会）…所持率を把握するにはアンケート調査をしなければならない

ない。今年度はヒサゴ沼避難小屋の改修工事もあり、南沼に泊まる人が多くなる。どの程度増えるのか、所持率はどうか、今年もアンケート調査をしてデータを残すべきだ。

〔男子の小便について〕

伊吹（山のトイレを考える会）…携帯トイレの所持率は向上しているが、小便はどうするか問題提起したい。多分、男性は携帯トイレで小便はしないのではないかと思う。私はもっと小さな専用のもを持って登っている。今日参加した皆さんはどのような工夫をしているのか教えて欲しい。

柘（上川自然保護官事務所）…私はボトルを使っている。1ℓの口広型。携帯トイレも使わないし、テントの中でこっそり出来るので便利。

仲俣（山のトイレを考える会）…南沼、美瑛富士の時は柘さんのようにボトルを使っている。利尻山で携帯トイレを使った。利尻山はブースがたくさん設置されているので快適だった。

小枝（山のトイレを考える会）…私もボトル。テント場ではアンモニアの臭いもするという苦情もある。難しい問題だと思うが登山者がそれぞれの所で自分出来ることをやっていくことになる。

〔汚物不法投棄の罰則について〕

山口（山岳レクリエーション管理研究会）…トイレ問題に対してやっていないことがもう一つあると前から思っている。それは罰則です。レクリエーションの問題を解決するには3つある。一つは技術的な問題。もう一つは利用者の意識的な問題。もう一つは法的な問題でアプローチするのが通常です。今一生懸命やっているのが、啓発活動でマナーに頼る方法です。やっぱり最後は汚物の不法投棄なんだと言うところまでいかないと。このようなケースはたくさんある。例えばタバコのポイ捨て、町中の立ち小便、野生動物の餌付け。それぞれ条例がある。ゴミのポイ捨てもそう、大雪山では汚物の不法投棄なんだとやると携帯トイレの所持率が上がるのではないかと。罰則をしたからと言って100%にならないが、マナーに頼るのは限界があって、最後は条例とか規則があり、罰せられますよと言った方がいいのかなとずっと思っている。

小枝（山のトイレを考える会）…罰則。誰が切符を切るのか。インパクトはあると思うが、現地での難しい実務がある。

山口（山岳レクリエーション管理研究会）…よくあるのは、注意すると「何の権限があって注意するんだ」と居直られることがよくある。その時に実は罰則規定があるんですよ、お知らせしておきますよ、あなたの為ですよ、と言えるようにできたらいい。

朝日田（未組織登山者）…海別岳は春シーズン、20年前から平然とスノーモービルが上がってきていたが、罰則、規則で規制されていることが徐々に周知されてきた。携帯やスマホで車両NOを控えて通報するとすごく減った。罰則に賛成。切符を切るのではなく、

やっぱり他の人が見ている通報されることが人間は嫌だと思うので賛成かなと思う。

〔登山者や民間、地域の協力について〕

小枝（山のトイレを考える会）…大雪山・山守隊では登山道整備に一般登山者の協力を得て成果を上げていることが話題になっている。山守隊の岡崎さんの考えを教えてください。

岡崎（大雪山・山守隊）…この2年ほど美瑛のブース設置とかトムラウシの植生復元に関わらせてもらっている。トイレも登山道もかなり似たような問題があるなと思いながら聞かせていただいた。自分は山岳会さんとか山関係者だけでなく、登山者の方と一緒にやっている部分が多いのですが、登山者の方と山岳関係者の方の意識はかなり違います。どっちかと言うと山岳関係者の方は登山道の崩れに対しては、もう諦めの心境になっている方がいたりして「昔からそうなんだ、しょうがないんだよ、ずっと俺は言い続けているんだ」で止まってしまっている。登山者を振り向いて見ると「何故やらないんだ、やるなら協力するよ」と言う方が非常に多くて、じゃあ、その力を何とか山で使いましょうと言うことでやらせてもらっている。整備イベントを開くと50人、70人とどんどん応募してくる。ただし、登山道も少しずつは治るのですが、この規模が例え10倍になったとしても登山道がキチント維持管理されるかと言えばされないと思う。もっと激しい浸食がどんどん続いている。だから自分がやっていることをしっかり考え、もっと広い目で見なければならぬと思う。トイレ問題もそうなんですけど、自分は環境を良くするためには本来、お金はかかるべき、かけるべきものと認識している。今は一生懸命お金が無い中でやろうとしている部分が多いのですが、本来はお金はたくさんかけるべき。たくさんお金をかけて、いい場所にして、人がどんどん来てもいいようにすると言うのがそもそもでないかと思っている。そのように思っているのは山岳関係者よりも一般登山者の方が強く思っている。20年前ぐらいしか自分は知りませんが、利用者負担とか話をすると殆ど嫌われたと思います。今は利用者負担、トイレ問題、登山道問題に対してお金を払ってもいいよと言う人は自分の感覚では半数以上あると思う。前は半数以下だと思う。これから管理はガラッと変わってくる可能性があって、その時のことを考えると、お金をかけない方法よりも、今この管理をするには、どの位かかって、それをどのように負担していくといいのかと言う、かける方、本来はこれ位かかる筈なんだとしっかり割り出し、それに対して民間からどのようにお金を集めるか。今、官民協働と言うのも行政も言ってくれていますから、民間からお金を集めることもできると思うのですね。せっかくだからいいのを作りたいと。携帯トイレブースにしたって「おお！綺麗なトイレブースだから使いたいな」と思われるぐらい立派なものを作って、管理は民間からお金を集めて、それこそみんなでやる。ボランティアベースでなくてもいい。そういう形に変えていくべき。議論としてそこから始まりたいなと思っていました。そうすると海外の人にも自信を持って勧められる。そういうベースは私自身ちょっと前まで考えられなかったんですけど、登山者を振り向いて、その人たちが考えていること、山に対して考えていることを精査するとで

きそうな気がする。登山者自らというふうに岩村さんもおしゃっていましたが、山の為に何かするよと言う協力者は話せばいるのです。そういう繋がりをたくさん作ればトイレ問題も結構解決するのではないかと考えています。さっき言われた利尻山は歩き易く携帯トイレも快適に使えたという所まで、大雪山でもできるのではないかと希望を持っている。そのためには視野を広げたいなと自分自身が強く思っています。

〔大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言について〕

小枝（山のトイレを考える会）…携帯トイレ普及宣言、これをどのようにして具体的に展開していくことを考えているのか聞かせて欲しい。

梶（上川自然保護官事務所）…18団体共同で宣言をさせていただいた。まさに始まりでして、美瑛富士にブースを作るとか、南沼にブースを増設するとか、さらに利用を高めることは重要な点の一つ。もう一つは本州の人にどのように、どういうふうに展開していくのかやっていかなければならない。インターネット、SNSを使って全国に知らせていくのが課題。美瑛富士と南沼だけではなく、野営指定地でトイレの無いところも他にあるので、そのような所はどのように進めていくか大きな課題。普及キャンペーンを毎年やっているのですが、例えば、私の考えるアイデアとしては、実際に混雑している時に仮設テントブースを設置、その期間だけ使ってもらう。そういう普及啓発も実際的な意味が伴う活動にするとさらに携帯トイレが今よりも広がるきっかけになるのかなと思う。みんなで一緒に考えていきたい。

5. 閉会挨拶…代表 小枝正人

岩村からバトンタッチして代表となりました。当会は事務局運営委員を募集しています。年齢は問いません。ぜひ一緒に活動してくれる方を歓迎します。このままフェードアウトするか、新しい世代に引き継ぐかの分岐点です。美瑛富士トイレ管理連絡会の事務局をやっている、放り投げるわけにはいかないのです。この数年、若い世代に引き継げるように頑張っていきたい。

(以 上)

(文責：山のトイレを考える会 仲俣善雄)